

各地で行われたイベント&話題を紹介するコーナーです。

親子のきずな深める秋

子育てを楽しむ「こどもまつり」

自然にふれる喜びと子育ての楽しみを見つけようと10月28日、「第7回こどもまつり」が高原の家七塚で行われ、約3,000人の家族連れでにぎわいました。

市内の各団体で構成するこどもまつり実行委員会が、子どもも親も楽しめるイベントにしようと企画。板橋小学校6年生による「板橋一心太鼓」の元気な演奏で幕開けし、子育てサークルによる「秋のコンサート」では、たくさんの親子がリズムをとって楽しんでいました。

その他、ポニーの乗馬体験・竹とんぼづくり・森の滑り台など、会場いっぱい到手づくり感あふれる体験コーナーが広がりました。子どもと一緒に参加したお父さんからは、「来て良かった。自分も楽しかった」との声が聞かれるなど、家族や参加者同士のふれあいが深まる秋の一日となりました。



ポニーの乗馬体験



親子でクラフトを楽しむ

市民の努力作が勢ぞろい

庄原市美術展覧会

第3回庄原市美術展覧会が田園文化センターで開催され、市民から応募があった作品など227点が展示されました。

この美術展覧会は日本画・洋画・写真の前期展が11月4日から8日、工芸・書の後期展が14日から18日と、2回に分けて開催され、延べ909人が来場しました。

応募作品の中から各部門で大賞と奨励賞合わせて51点が表彰され、審査員は「日頃の努力がよく見える作品ばかり」と評価していました。

巡回展は11月24日から26日、口和文化ホールで開催されました。



手前の作品はひょうたんで作られた蛸

ステージ発表やバザーで交流

高地区ふるさと祭

第27回高地区ふるさと祭が11月4日、高小学校のグラウンドと体育館で開催されました。

広島県警察音楽隊のドリル演奏をはじめ、ステージ発表や作品展示、農産物や加工品の販売でにぎわいました。

また、庄原市に1千万円を寄付した高地区出身の叶迫恵さん（和歌山県在住）の紺綬褒章の伝達式が行われました。寄付金は新庁舎建設と高小学校の備品整備に使用します。



県警音楽隊による演奏



ふるさとへの思いを語る叶迫さん

「刺し子のれん」が町なみを彩る

東城まちなみぶらり散歩ギャラリー

10月27日から11月5日までの10日間、東城市街地で「東城まちなみぶらり散歩ギャラリー」が開催されました。今年も店舗、民家など約40会場に、パッチワーク、灯りアート、和紙人形などの貴重な作品が展示され、連日多くの方が市街地を散策しました。

老舗旅館「三楽荘」では、病床で治療の辛さと闘いながら制作した浅田重子さんのパッチワークなどの布作品と、愛知県立芸術大学の柴崎幸次さんが制作した照明器具を展示。夜の和紙灯りアート展では、より一層のリアルな迫真性、展示空間の広がり生まれ、また布作品に潜む生への力強さが強調されていました。

期間中の11月4日に開催された「お通り」には、朝早くからカメラマンや観光客が訪れ、にぎわいを見せていました。行列が通ると殿や姫、母衣との記念撮影に行列が停まる場面も。途中、数か所で行われた鉄砲隊などのパフォーマンスに歓声があがっていました。

訪れた観光客からは、「住民に活気があっていい」「来年もまた来ます」との声が聞かれました。



風情のある町家の和室がギャラリーに



市街地を練り歩く「お通り」



各店舗前に「刺し子のれん」



光の陰影の差を利用して立体感を創出

市民会館開館30周年を祝う

「BSふるさと皆様劇場」公開録画

庄原市民会館開館30周年を記念して、NHK広島放送局と庄原市は11月7日、衛星第2テレビの人気番組「BSふるさと皆様劇場」の公開録画を行いました。

前川清、梅沢富美男、藤あや子が出演するとあって、庄原市をはじめ全国から6,000通を超える応募があり、抽選の結果約900人が来場しました。

公開録画は、市民も舞台上に登場し、昔ながらの芝居小屋の雰囲気、出演者と客席がふれあいながら、歌やトーク、芝居を楽しみました。

この公開録画の放送予定日は、衛星第2テレビで12月16日（日）19時30分～20時49分、再放送は12月21日（金）21時～22時19分です。



前川清さんが歌いながら会場内を回りふれあう



市民も舞台上に登場し盛り上げる

相田みつを作品から学ぶ 比和人権講演会「いのちのバトン」

10月25日、比和文化会館大ホールで、人権講演会を開催しました。「にんげんだもの」などの作品で知られる相田みつをのご子息で、相田みつを美術館の館長でもある相田一人さんが、「いのちのバトン」と題して講演しました。

1点の作品が生まれるまでには、何百、何千、何万枚もの失敗作があったことなど、作品が生まれるまでのエピソードや相田みつをが伝えたかったメッセージを、息子ならではの視点から紹介しました。

講演の後半には、在りし日の相田みつをさんのVTRが流れ、戦死した兄との思い出を通して親と子の絆の大切さを訴え、参加者の涙を誘いました。

参加者は「相田みつをの作品が、なぜこれほどまでに多くの人たちに愛されているのか、現代社会を生きる私たちに強いメッセージ性があるのかが分かった」と話していました。



講師の相田一人さん

かかしが地域を見守る 防犯かかしコンクール



庄原警察署前に展示されたかかし

庄原警察署管内防犯組合連合会は、全国地域安全運動に伴い、10月11日・12日の2日間、防犯かかしコンクールを開催しました。

各地区防犯組合が作成したかかし12体が出品。プロ野球の前田選手をモデルに「打ちとばせ!! 暴力」と暴力の根絶を願ったものや、「その一杯が重大事故に」と飲酒運転の禁止を呼びかけたものなど、力作がそろいました。

庄原警察署などの関係団体や一般市民など23人が出来栄を審査。全国地域安全運動期間中（10月11日～20日）には、庄原警察署玄関前に作品を展示し、防犯・地域安全意識の高揚を図りました。

入賞作品

- 1位（金賞） 庄原地区防犯組合 山内東地区
「地域で守ろう子どもの安全」
- 2位（銀賞） 口和地区防犯組合
「携帯電話の事故に気をつけて」
- 3位（銅賞） 庄原地区防犯組合 本田地区
「振り込む前に相談を」

火災予防を訴え園児がパレード みどり園・比和保育所

秋の火災予防運動にあわせて11月8日、口和町の「みどり園保育所幼年消防クラブ」が、消防署員や消防団員らとともに町内をパレードし、拍手木を打ちながら火災予防を呼びかけました。

沿道では、多くの市民が園児たちを出迎え、声をかけたり、写真を撮ったりする姿が見られました。到着地の口和老人福祉センターでは、みんなで火災予防に努めることを誓い、火災予防の啓発を担いました。

また、10月23日には、比和保育所の園児たちが元気よく「火の用心！絶対に火遊びはしません！」と防火の誓いをしながら街中を歩きました。

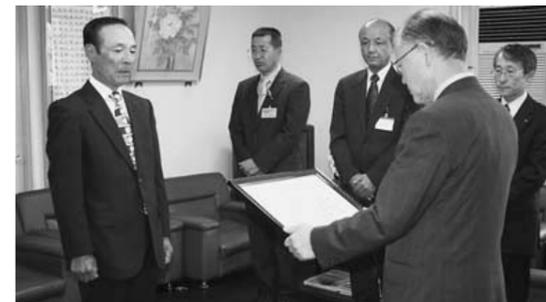


みどり園保育所（口和）



比和保育所

高い技術が認められる 「森の名手・名人」に天野忠昭さん



市長から天野さん（左）に認定証が渡された

優れた技を極め、他の技術・技能者の模範となっている達人「森の名手・名人」に、天野忠昭さん（川西町）が選ばれました。

これは、森を再生していくさまざまな技術の大切さを広め、その技を育んできた地域の自然と気風を守り育てていくことを目的とし、（社）国土緑化推進機構が毎年認定しています。

天野さんは、苗木生産44年の経歴で、苗木品評会では県知事賞（12回）、林野庁長官賞（5回）、農林水産大臣賞（3回）を受賞しています。

乳下がりイチョウの謎を探る 高野自然観察教室

樹勢回復事業に取り組んでいる県天然記念物「乳下がりイチョウ」の下で、10月21日、今年3回目の高野自然観察教室を開催しました。

イチョウの謎を探るため、乳下がりイチョウの歴史や、生きている化石といわれる原始的な特徴などを学びました。また、毛無山に登山して、新市盆地の歴史や地質、生物の生態にふれました。

参加者は、「山深い所にイチョウの木がない理由が分かるなど勉強になった。また参加したい」と話していました。



イチョウの下で講師の中村慎吾さんから説明を受ける

早期の発見・連絡で窃盗被害を防ぐ 垣内春三さんへ感謝状



感謝状を受け取る垣内さん（左）

自動販売機狙いを発見し、早期に駐在所へ連絡したことにより、現行犯逮捕に至ったとして、庄原警察署は11月7日、垣内春三さん（本村町）へ感謝状を贈りました。

垣内さんは8月12日、家から約200m離れた自動販売機前に、怪しい車と光を発見し、不審に思い駐在所へ連絡。駐在署員などが駆けつけ、工具により自動販売機から現金を盗み取ろうとしていた犯人を逮捕しました。

着衣泳のコツを親子で学ぶ 水難事故に備え「着衣泳体験」

10月31日、西城温水プール（水夢）で、子どもから大人まで37人が参加して、「着衣泳体験プログラム」が実施されました。

参加者はTシャツやズボンなどを着たまま水に入り、あおむけの姿勢で浮く方法や、服の中に空気を入れて浮力をつける方法、頭を沈めないように飛び込む方法などを体験しました。

講師の木村加恵さんは、「着衣泳の基本は、浮くことです。水に落ちたら、落ち着いて呼吸できる状態を確保して、浮きながら体力を保ちます。その次に、移動する技術を身につけてください」と話していました。



服を着たままプールへ

有事に備え、ヘリコプターが出動 大規模林野火災想定訓練

秋季全国火災予防運動の行事の一つとして、庄原市大規模林野火災想定訓練が11月11日、東城中央運動公園を中心に行われ、関係機関や地域住民約380人が参加しました。

迅速・的確な災害対応が円滑に実施できる協力体制を確立することや、市民の防火意識の高揚を目指して、林野火災防衛訓練・負傷者救護訓練・吹き出し訓練などを行いました。

また、広島県防災航空隊のヘリコプターによる、約1300リットルの水を一気に上空から散水する空中消火訓練や、上空で待機するヘリコプターから航空隊員が降下し負傷者を吊り上げ救助する訓練などが行われ、大勢の親子連れなどが迫力ある訓練に見入っていました。



ヘリコプターによる救助訓練

林業体験で地域の後継者を育成 森の楽校高野分校が開校

11月3日、森の楽校高野分校（庄原市林業研究グループ連絡協議会主催）の第2学期が高野町和南原で開校しました。

昨年度に引き続き、「地域の後継者を育てよう」をテーマに、地元の高野町森林・林業研究会、和南原緑の少年団、和南原子ども会から小・中学生17人と大人25人が参加しました。

松の植林地では枝打ち体験を行うとともに、広島県指導林家の前田正人さんから枝打ちや間伐の必要性について説明を受けました。広葉樹林の森で行われた木工クラフト教室では、講師に全国森林インストラクター会の長井稔さんを招き、親子で木の名札作りやクリスマスリース作り体験を行いました。子どもたちの創造性あふれる作品に大人も感心し、終日森の中に歓声がこだましました。



枝打ちを体験する子どもたち

元気な口和を発信

口和健康ふくし祭「わいわいフェスタ」



医師と社協センター長の寸劇

第7回口和健康ふくし祭が10月21日、口和文化ホールヒューマンライツで開催されました。今回は、「元気な口和 輝くあなた」をテーマに、口和フライングディスク大会を新たに企画し、自治振興区をはじめ多くの人でにぎわいました。

ステージでは、保育所園児の歌、町内作業所のハンドベル演奏、町内特養施設のハートウィング音頭、太極拳の実演や太鼓演奏を披露。医師と庄原市社協センター長による寸劇で会場いっぱいを笑いに包み込みました。

来場者は、バザーや特産品コーナーで食欲の秋を満喫。「リフレッシュコーナー」のハンドマッサージなどで身体を癒し、貴重な蓄音機で懐かしい音に浸りました。

トロッコ列車でリフレッシュ 「キッズルームひよこ」が遠足

美古登子育て支援施設キッズルームひよこの親子50人が10月26日、トロッコ列車に乗って遠足に行きました。



窓がなく風を感じて走るトロッコ列車

トロッコ列車に出雲横田駅から備後落合駅まで乗り、大自然を満喫。トンネルに入ると、暗い中、風も強くなって「キャー！」と、大はしゃぎでした。

また、県民の森で紅葉を楽しみながら昼食をとり、参加者の親睦を深めました。

参加したお母さんたちは、「日頃の子育てのストレスが、吹っ飛びました」「初めての体験で、とっても楽しかった」と喜んでいました。

「地つき」で自治会の基盤を強める 上原一区自治会「ふれあい祭」

上原一区自治会が10月28日、上原老人集会所で「第1回ふれあい祭」を開催しました。

自治会の基盤がより強固となるよう、昭和30年頃まで家を建てるなどの際の地盤固めに用いられた工法「地つき」を再現。庄原地方では、「えんやつき」、「どうつき」とも呼ばれ、「地つき唄」に合わせて一人一人がロープを引っ張り、自治会の繁栄を願いました。

その他、もちつきやりんごの皮向き、宝さがしなどで、会員の親睦を深めました。



子どもたちも力を合わせて「地つき」を体験

下領家特産の「そば」を収穫 自治振興区が地域振興



そばを刈り取る地元住民

里山環境保全と地域の産業振興を図ろうと、そばの栽培に取り組んでいる総領町の下領家自治振興区が10月31日、地元住民29人が参加して、そばの刈り取りを行いました。

平成15年から始まり、振興区内の約25アールの休耕田や畑を利用して栽培。今年は少しでも収穫量を増やそうと、できるだけ手作業で刈り取り、約130*のそばの実が収穫されました。

収穫したそばの実を石臼で挽き、区民による手打ちそばとして、イベントや2月からの節分草草開期間中に販売する予定です。

博物館の魅力再発見 比和博物館まつり

「博物館を見て知って体験しよう！」をテーマに、第1回比和博物館まつりを11月18日に開催しました。

この日は、比和自然科学博物館を無料開放し、いつもは見ることのできない収蔵物も一般公開しました。電動ミニカー工作教室では、38人の子どもたちが参加し、夢中でミニカーを作っていました。

また、比和公民館まつりと比和まちなかウォークも同時開催され、詩吟や演劇などのステージ発表やピンゴ大会、比和産新そばコーナーなどが用意され、参加者は秋の1日を楽しんでいました。



電動ミニカーを走らせて遊ぶ親子